

はしがき

学生のみなさんのライティング答案を採点していると、英語で書かれてはいるものの、「日本語が透けて見える」と感じることがあります。語彙・表現・文法の知識をしっかりと持ち合わせている学習者が書いた英文であっても、段落を構成し、まとまった分量の英文を紡ぐとなると、やはり「日本語が透けて見える」ことがあります。これは、思考や発想のレベルでは、母語である日本語が主導権を握ったままになっていることが一因です。

一文でも、まとまりのある英文でも、適格に表現するためには、「英語らしい表現」が求められます。この「らしさ」は、言語によって異なる「情報の展開パターン」に加え、「言及されることが期待される／期待されない情報」にも垣間見られます。

ドイツ語の話になりますが、西嶋義憲(2017)「日独新聞記事の文体比較のために：日本語らしい報道とドイツ語らしい報道」(『言語文化論叢』21. 83-98)によると、メディアが「交通事故を報じる」場合、事故の規模を示すためにドイツ語では「被害金額が明示される」(例えば「バスの物損は警察によると2,500ユーロに達する」とのことです。日本語で交通事故を報じる際には、そのような情報はまったく見られませんから、ドイツ語で交通事故を報じる記事を見たことがない人には想像もつかないことだと思います。これがドイツ語では「言及されることが期待される情報」、日本語では「言及されることが期待されない情報」です。

英語らしい英語で文章を書けるようになるには、英語母語話者による実例を一つ一つインプットし学んでいくことが大切です。しかし、実例に触れて自ら一般化して学んでいくには、単なるインプットでは不十分であり、「圧倒的なインプット」が求められます。

本テキストは、大学生が英語を使うと想定される場面の事例から導き出した「テンプレート」を通して、この「圧倒的なインプット」を支援する意図で編集されました。英語らしい英語で文章を紡ぐことができるよう、英語らしい「情報の展開パターン」と「言及されることが期待される／期待されない情報」を涵養してほしいと思います。これにより、みなさんの英語の知識が、スキルにまで昇華されていくことを願っています。

著者一同

ENGLISH TEMPLATE WRITING

DEEPER IDEA DEVELOPMENT

Table of Contents



p. 7

Chapter 1 Self-Introduction

自己紹介



p. 13

Chapter 2 Apologies

謝罪



p. 19

Chapter 3 Reports

報告



p. 25

Chapter 4 Requests

依頼



p. 31

Chapter 5 Declining / Refusals

遠慮 / 辞退



p. 37

Chapter 6 Proposals

提案



p. 43

Chapter 7 Recommendations / Personal Statements

推奨 / 自己アピール



p. 49

Chapter 8
Opinions

意見表明



p. 55

Chapter 9
Asking for Advice

相談



p. 61

Chapter 10
Narrating Past Events

過去の出来事を語る



p. 67

Chapter 11
Gratitude

感謝



p. 73

Chapter 12
Cover Letters

送付状



p. 79

Chapter 13
Abstracts

論文の要旨



p. 85

Chapter 14
Acknowledgments

謝辞

p. 95

切り取り式解答用紙【巻末】

本テキストの構成と使い方

ここでは、*English Template Writing* の構成や設問の内容、ねらいなどをまとめています。本テキストの特徴をよく理解して、英語の知識をスキルにまで高めていきましょう。

本テキストの構成

本テキストは、実例から抜き出されたテンプレートを活用し、英語らしい「情報の展開パターン」や「言及されることが期待される／期待されない情報」を学ぶことを目的としています。大学生が英語を用いる場面を想定して用意された各Chapterは、5つのステップで構成され、順を追って学習内容が身に付くように構成されています。

STEP 1 Let's ANALYZE!

STEP 1 では、英語母語話者と日本語母語話者による英文をじっくりと比較・分析し、英語らしい「情報の展開パターン」「言及されることが期待される／期待されない情報」に気づくことを目指してください。**ワンポイント解説**も参考にしながら、それぞれのChapterで学ぶべき内容をしっかりと意識しましょう。

STEP 2 Let's INPUT!

STEP 2 は、それぞれのChapterで採り上げているテーマに関して、頻繁に用いられる語彙・表現をインプットすることを目指します。**INPUT** ▽ **Basic Words and Expressions** には、重要な知識としてストックしておいてほしい語彙・表現をリスト化しています。各自でさらに書き加えてリストを豊かにしていくのもよいでしょう。続く設問で、インプットした知識がセンテンスの中でどのように用いられるか、空所補充形式で演習していきます(空所には、入るべき語の語頭を示している場合もあります)。この演習では、インプットした知識を実際に使いながら理解を深めていきましょう。

STEP 3 Let's OUTPUT!

STEP 3 は、**STEP 1** と **STEP 2** で学んだことをもとに、いよいよ自分で英文を書く練習に入ります。**1** から **3** は、「和文英訳」→「テンプレートを活用した英作文」へと、段階を踏んで演習できるように工夫されています。**STEP 1** のテンプレートを見ながら構いませんので、英語らしい「情報の展開パターン」「言及されることが期待される／期待されない情報」を常に意識し、伝えたい内容を英語で表現する演習をしていきましょう。

STEP 4 Let's PRACTICE!

STEP 4 では、英語母語話者による (**STEP 1** とは異なる) 英文が新たに提示されます。**STEP 1** と同じく、英語らしい「情報の展開パターン」「言及されることが期待される／期待されない情報」を理解しようという意識を持って、丁寧に読み込みましょう。これにより、「日本語が透けて見える英文」から脱却する基礎を築くことができるはずです。

STEP 5 Let's POLISH!

STEP 5 では、**STEP 4** で各自が作成した英文を使い、グループワークで互いにフィードバックし合うというタスクを行います。英語ライティングの力は、人に見てもらい、批評や指摘をしてもらうことで磨かれていきます。グループの他のメンバーが書いた英文に触れ、さらなる気づきも得てほしいと思います。

なお、本テキストでは以下の表記を用いています。設問の空所に動詞が入る場合、その活用形を指定している場合もあります。

do 動詞の原形	doing 動名詞・現在分詞	done 過去分詞
S 主語	V 動詞	

機械翻訳や生成系 AI の技術・精度が大きく進展している現在では、いわゆる 4 技能 (読む・書く・聞く・話す) に加え、AI を活用するスキルも英語学習には必要になっています。深層学習 (deep learning) に基づく機械翻訳や生成系 AI は、学習量とパターンの抽出という「量」を中心とする存在である一方で、私たちのコミュニケーションは通常「質」によって評価されます。

本テキストを使った授業では、機械翻訳や生成系 AI を活用するか否か、授業で方針が示されると思います。しかし、上記で述べた「量」と「質」の問題を乗り越えられるのは、私たち人間の知性でしかありません。出力された英語が適切なかどうか、人が判別するにはその人に確たる英語力が必要です。そのため、まずはみなさんが努力を重ね、英語力を卓抜した域にまで高められるよう願っています。

Self-Introduction



Chapter 1

英語には「英語らしい」自己紹介の仕方があります。英語の自己紹介に接する機会が十分になく、母語である日本語が思考の主導権を握ったままの場合、「日本語が透けて見える」自己紹介に陥ってしまいます。まずは、日本語を母語とする学生と、英語を母語とする学生が書いた自己紹介原稿を読み比べ、「英語らしい」自己紹介のポイントを把握しましょう。

STEP 1 Let's ANALYZE!

- 1 次の2つの英文は、「学期の最初にクラス全体に向け30秒で自己紹介をする」という場面を想定して書かれた自己紹介文です。それぞれが、日本語母語話者と英語母語話者のどちらが書いたものか考えましょう。

Self-Introduction A

 DL 02  CD 02


My name is Shunji Kaneshiro. I belong to the major of English linguistics because I am interested in intercultural communication. I am from Toyama prefecture and live alone in Tokyo. My hobby is singing and I often go to karaoke. My second language is Italian. I studied it in Italy this August. It was a very valuable experience for me because I studied not only languages but what a foreign life was like. Now I study Italian and sociolinguistics hard.

Self-Introduction B

 DL 03  CD 03

Hello, my name is Taku Matsui. I am a sophomore studying Media and Governance. I am interested in media, specifically in non-fiction editorial writing. I was involved in editing my high school newspaper and I am now working on a club project to produce YouTube videos that explain current social issues. In the future, I would like to work in the mass media sector, and in this class, I would like to focus on media studies in order to think about my future in a more concrete way.

- 2 上記2つの英文にどのような違いがあるか、気付いたことをできるだけたくさん挙げましょう。



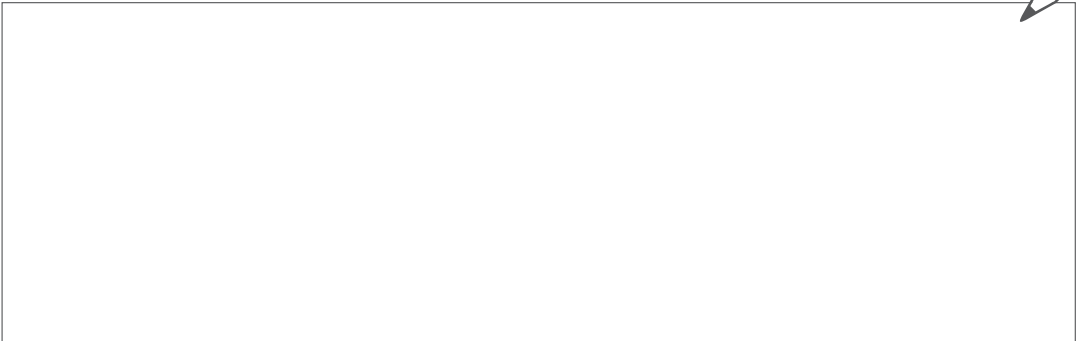
3 次は、**Self-Introduction B** からパターンを抜き出したテンプレートです。

Self-Introduction B を参考に、空所に入る情報の種類を語群から選び、テンプレートを完成させましょう。

Hello, my name is (^{1.}). I am a (^{2.}) studying (^{3.}). I am interested in (^{4.}), specifically in (^{5.}). I was involved in (^{6.}) and I am now (^{7. doing}). In the future, I would like to work in (^{8.}), and in this class, I would like to focus on (^{9.}) in order to (^{10.}).

- ①就職を希望する業界 ②この授業で特に力を入れたいことの理由
- ③関心事 (より具体的) ④学年 ⑤この授業で特に力を入れたいこと
- ⑥これまで行ってきたこと (経験) ⑦自分の名前 ⑧関心事 (概略)
- ⑨いま現在行っていること ⑩専門分野

4 **Self-Introduction A** と **B** をもう一度読み比べ、英語ではどのような情報をいかに展開するのが好まれるか、各自で考えましょう。その後、どのような相違があるかグループで話し合しましょう。



ワンポイント解説

日本語母語話者によって書かれた **Self-Introduction A** は、「名前→現所属→出身地・現住地→趣味→第二学習言語→イタリア留学→現況」と情報が単発的に羅列されていますが、英語母語話者による **Self-Introduction B** では、抽象的に提示された情報をより具体的に置き換えることを通して「話題を膨らませる展開」となっています。この点が顕著に表れている箇所が ... in media, specifically in non-fiction editorial writing. です。まずは media と広く表現し、次に specifically 「具体的には」によって、non-fiction editorial writing という具体的な内容が導かれています。

STEP 2 Let's INPUT!

INPUT

Basic Words and Expressions

① 学年を表す表現

a freshman / a first year student 「1年生」

a sophomore / a second year student 「2年生」

a junior / a third year student 「3年生」

a senior / a fourth year student 「4年生」

② 学問分野を表す表現

aesthetics 「美学」

anthropology 「人類学」

ethics 「倫理学」

business administration 「経営学」

economics 「経済学」

jurisprudence 「法学」

linguistics 「言語学」

literature 「文学」

philosophy 「哲学」

politics 「政治学」

psychology 「心理学」

sociology 「社会学」

statistics 「統計学」

history 「歴史学」

自己紹介には、よく使われる表現があります。日本語を参考に、空所を英語で埋め、表現をストックしましょう。頭文字が与えられているところもあります。

1. 自己紹介をさせてください。私は18歳の4年生です。

Let me () myself. I'm an 18-year-old () student.

2. リズと呼んでください。私は法学部に在籍しています。

Please () me Liz. I'm in the Faculty of ().

3. 私は経営学を専攻しています。

I am a () () major.

4. 私は三田大学の2年生、つまり2年目の学生です。

I am a (), a (s) year student at Mita University.

5. 私は経済学を専攻しています。

I am majoring (i) ().

STEP 3 Let's OUTPUT!

1 話題を膨らませる表現を意識しながら、空所に正しい英語を書きましょう。頭文字が与えられているところもあります。

1. 私は楽器について、特にサックスについて学んでいます。

I am () musical instruments, (p)
the saxophone.

2. 私はカジュアルな服装が好みではありません。具体的には、いつもネクタイをしています。

Casual dress is not my cup of tea. (S) , I always
(w) a shirt and tie.

3. 私はボランティア活動に関わっています。さらに世界の貧しい子どもたちを救うために寄付を募っています。

I am (i) in volunteer activities. In (a) ,
I am collecting donations to help needy children in the world.

4. 私は日本のアニメ、とりわけ、ジブリ映画に興味があります。

I am () in Japanese animation, in (p) ,
Ghibli movies.

2 自己紹介をする場面を思い浮かべながら日本語文を完成させましょう。その後、主語や語順を意識し、英文を書きましょう。

1. 私の一番好きな食べ物は_____です。特に_____です。

2. 私は_____に関心があります。特に_____です。

3 Self-Introduction B のテンプレートを活用し、話題を膨らませる表現を使い、p. 95に自分自身の自己紹介文を書きましょう。

STEP 4 Let's PRACTICE!

- 1 **Self-Introduction C** も英語母語話者による自己紹介文です。空所に入る情報の種類を語群から選び、テンプレートを完成させましょう。

Self-Introduction C

DL 04 CD 04

Hello, my name is Robin and I am from Portugal. I am a *diligent and sociable person who enjoys conversing with others and working in groups. My favorite activity is trying new things that other people find interesting, particularly ones that involve a lot of people. My dream is to travel all around the world. To make my dream come true, in addition to working hard at part-time jobs to save money, I attempt to study as many languages and cultures as possible from across the globe. This is because I'd like to chat with the locals in their own languages.



*diligent 「勤勉な」「真面目な」(hardworkingよりもやや堅い響き)

Hello, my name is (1.) and I am from (2.). I am a (3.) person who (4. do). My favorite activity is (5.), particularly ones that (6. do). My dream is to (7.). To make my dream come true, in addition to (8.), I attempt to (9.). This is because (10.).

- ①性格(概略) ②将来の夢 ③夢の実現のためにBを行っている理由
 ④趣味(概略) ⑤自分の名前 ⑥出身地
 ⑦夢の実現のために行っていることA ⑧趣味(より具体的)
 ⑨性格(より具体的な説明) ⑩夢の実現のために行っていることB



ワンポイント解説

Self-Introduction C は、大きく分けて「①自分について→②趣味について→③夢について」という3つの話題で構成されています。話題が次々に投入されているように見えますが、やはり「話題を膨らませる展開」になっています(e.g. ... new things ..., particularly ones that ...)。自己紹介はさまざまなシーンで行われます。**Self-Introduction B** と **C** は「話題を膨らませる話題展開」という共通点はあるものの、前者は教室というフォーマルな場面、後者はプライベートな場で初めて会う人に挨拶するなどのインフォーマルな場面に合います。


- 2 **Self-Introduction C** を参考に、話題の膨らませ方を意識しながら、p. 95に自己紹介文を書きましょう。

STEP 5 Let's POLISH!

- 1 STEP 4で作成した英文を使い、グループでお互いに自己紹介をしましょう。また、相手から得た情報を表にまとめましょう。

	メンバー1	メンバー2
名前		
出身地		
性格(概略)		
性格(より具体的な説明)		
趣味(概略)		
趣味(より具体的)		
将来の夢		
夢の実現のために行っていることA		
夢の実現のために行っていることB		
夢の実現のためにBを行っている理由		

- 2 相手の自己紹介文について、良くできている点や修正が必要だと思われる点を書き出し、お互いにフィードバックしましょう。



- 3 2で相手からもらったアドバイスを参考に、STEP 4で書いた英文をp. 97に書き直しましょう。
- 4 p. 97のCheck Pointsにて、この章のふりかえりをしましょう。

No. _____ Name _____

STEP 3**Let's OUTPUT!** (p. 10)

- 3 Self-Introduction B**のテンプレートを活用し、話題を膨らませる表現を使い、自分自身の自己紹介文を書きましょう。

No. _____ Name _____

STEP 4**Let's PRACTICE!** (p. 11)

- 2 Self-Introduction C**を参考に、話題の膨らませ方を意識しながら、自己紹介文を書きましょう。

Chapter 1 Self-Introduction

No. _____ Name _____

STEP 5 Let's POLISH! (p. 12)

3 2 で相手からももらったアドバイスを参考に、STEP 4 で書いた英文を書き直しましょう。

Chapter 1 Self-Introduction

No. _____ Name _____

Check Points

この章をふりかえって、あなたが意識できたと思うものにチェックを入れましょう。

- 英語として違和感のないまとまりのある英文を書けることを目指し、適格な一文を書けることに加え、英語らしい情報の流れにも注意を向ける
- 実例からテンプレートを作成し、どのような情報がいかに提示されるかを意識し、英語で好まれる話題展開の型を身に付ける
- 英語の自己紹介文では、情報を単に並べるのではなく、【抽象→具体】という流れで話題を膨らませながら展開することが好まれる